

2025

9

September
No. 391

広報

みま

祝三島町二十歳を祝う会

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

8月10日、三島町交流センター山びこで行われた「二十歳を祝う会」。昨年度に20歳になった12名のうち、11名が参加し、ふるさと「三島」への想いを語りました。



二瓶伸悟さん

遠く沖縄から、故郷三島町へ届け！ 全国大会で奮闘

8月17日に沖縄県で開催された「第52回全日本中学校陸上競技選手権大会」男子砲丸投げに、三島中学校の二瓶伸悟さんが出場しました。

「熱い想いを乗せた1球を故郷三島町へ！」との決意で挑み、記録は12メートル90センチ、37位という成績を収めました。

今大会には、全国標準記録を突破した精鋭48名が出場しており、二瓶さんは県大会での自己記録13メートル33センチには届かなかったものの、生徒数10名の三島中学校から全国大会に出場し、堂々と戦いました。

その勇姿は町に大きな感動と勇気を届けてくれました。



▲ 8月4日、役場を訪れ、全国大会出場での活躍を誓う二瓶伸悟さん



▲ 8月22日、役場にて、全国大会の結果報告をする二瓶伸悟さんと酒井康雄三島中学校長

令和7年度 二十歳を祝う会



▲ 代表挨拶をする板橋唯さん

氏名	地区
板橋 唯	宮下
菅家 悠那	中平
佐久間 琉太	小山
小松 弘利	西方
酒井 凌大	宮下
鈴木 啓生	宮下
二瓶 宗悟	西方
二瓶 美仁	桧原
二瓶 勝美	桑原
舟木 凛	宮下
本名 円佳	中平
渡部 妃菜	荒屋敷

三島町「二十歳を祝う会」が、8月10日に三島町交流センター山びこで行われ、昨年度に20歳になった12人のうち11人が出席しました。

矢澤源成町長からは、出席者にお祝いのことと共に、「二十歳の記念証」が手渡され、中学時代の恩師である佐藤雅司先生からは、懐かしいエピソードを交えたメッセージをいただきました。続いて二十歳の誓いでは、「これまで支えてくれた人に恩返しができる努力をする」「町の発展に貢献したい」など一人ひとりが抱負を述べました。

その後、産業建設課小松課長をファシリテーターとして「人口減少社会における三島町の持続可能な姿を考える」をテーマに、トークセッションが行われました。

出席者からは、介護を充実させ住民生活を向上させることや、アートを活用し

二十歳の想い・ふるさとへの願い



▲ トークセッションの様子

た町づくりなど、若い人を町に呼び込むための案など活発な意見が出されました。

写真撮影の後は、懐かしい学び舎を訪れ、旧交を温めていました。

特別町民の集い IN 三島町

開催のきっかけ

8月10・11日、「特別町民の集いIN三島町」が開催されました。昭和49年に始まったふるさと運動は「理想のふるさとと一緒に作りましょう」という呼び掛けで、都市と農山村の交流による地域づくりを目指しました。その中で「特別町民制度」は町の施設を町民の方と同じように利用できる制度で、当時は民家に親戚のように泊まることのできる「ふるさとの家」があり、特別町民と町民の交流が盛んに行われていました。

現在も、「ふるさと運動」に賛同する方々が毎年会費を納め、町を応援してくださっています。毎月の広報誌の発送や、年末のふるさと小包といった一方的な繋がりと変わってしまっており、特別町民の皆様が持ち前の、ふるさとへの思いやアイデアをまちづくりに活かす仕組みを構築することが求められていました。そこで今回、次の50年を町民の皆様と特別町民の皆様が共に築いていくために、どのような関わり方ができるのかを直接話し合う機会を設けることにしました。

①三島町の思い出と未来を語る茶話会

今回の集いの初日に開催された茶話会では、この事業のコーディネーターでもある、株式会社とぶひ代表取締役の大谷啓介氏のファシリテーションのもと、会の前半は参加者の皆様に「三島町の思い出」を語っていただき、地域政策課板橋課長による「現在の三島町の紹介」を挟み、後半では「三島町に期待すること」を語っていただきました。

【三島町の思い出】

- ・美坂高原で自転車に乗って自由な時間を過ごした。
- ・川をせき止めて泳いだりしていた。
- ・主人と一緒に参加した桐の里リレーマラソン。
- ・松原地区で1月14日に行われた鳥追い。
- ・自分の子どもに餅つきを体験させたかったので、三島町から東京まで白を運んでもらった。

【三島町に期待すること】

- ・昔楽しかったことを子どもたちにも体験させたい。
- ・芋煮などをする。（子どもたちが自分で作って食べることを、仕上げまでの経過への関わり方が大事）
- ・お年寄りの力を活かして、町民一丸となって町づくりを行ってほしい。
- ・基盤となる仕事先が必要。それも現代に当てはめられたもの。（特に都心の人々にフォーカスした観光業に力を入れるべき。）



▲ ①茶話会の様子

②夕食懇親会

会場を糸屋旅館に移して行われた夕食懇親会では、「語り部サークルちゃんちゃんこ」の小松けい子さんと佐久間絹江さんによる歓迎の昔語り、三島町地域おこし協力隊の茂田龍揮さんによる箏の生演奏、交流センター山びこの川合所長の解説による「みしま―合併10周年のあゆみ―」の放映が行われました。滝谷風穴で熟成させた手打ちそばや、にしんの山椒漬、会津地鶏のもつ煮など、ふるさとの味を愉しみ、「懐かしさと新たな発見があった」という感想もいただきました。

③三島町めぐり

2日目は、実際の三島町を見学いただくことを目的として町内の周遊を行いました。三島町生活工芸館にて記念品の山ブドウストラップの制作と館内見学、三島町交流センター山びこにて川合所長の解説のもと企画展「奥会津の川」を見学、あいにくの雨で「みさかDEあそび！」の賑わいをご覧いただくことは叶わず、「美坂高原が叙しくなっていました」とのご感想がありました。



▲ ②夕食懇親会での昔語り



▲ ③三島町めぐりでの美坂高原

④アンケートの声

- 〔今後三島町がどう在ってほしいか〕
- ・人口が増加し賑やか
- ・来訪者が多い
- ・美しい景色が残る
- 〔今後の町と特別町民との関わり方〕
- ・短期的な農作業やイベントの手伝い
- ・様々な町づくりアイデアの提供
- ・町のイベントへの参加
- ・三島町産品の定期購入
- ・ものづくり教室の受講
- ・ふるさと納税
- ・三島町で農業を始める
- ・三島町で知り合えた方との交流
- ・できるだけ三島町に来る
- ・地区の行事等に参加する
- ・避暑のため、貸別荘があれば温泉を巡って心身を休めたい。

⑤まとめ

今後の三島町と特別町民の皆様との関わり方については、更に協議の中で検討していくこととなります。今回参加が叶わなかった方も含め、アンケートによる一定数の特別町民の方のご意向を把握できたこと、また町に対する温かい応援の気持ちには、町にとつての大きな力です。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。そして、今実際に住んでいる三島町民の皆様のご意向に耳を傾けながら考えて参りますので、ご意見をお聴かせいただければと思います。

特別町民来訪記

5月末、50年前に特別町民として夏休みを三島町で過ごされていた吉澤淳一様とご家族が、40ぶりに三島町を来訪されました。きっかけは、只見線全線開通の全国ニュース。「行っていたところだよな」と思い、その後娘さんからの後押しにより実現に至ったそうです。

今回、40年前に泊まっていた西方地区の小平さん宅を訪問し、当時お世話になっていた家の娘さんと再会を果たされました。小平さんは「岳ちゃんのお母さん！」と淳一様の奥様を覚えていてくださったそうです。またこの旅では、「理容・コジマ」のご主人からコーヒーとワラビのおもてなしを受けられ、「旅先でこういう人に出会えると嬉しいですね」と喜ばれておりました。

奥様の望様曰く、三島町の魅力は「人の温かさ」と自然。そして「今の都会の若い人も、自分の子どもに、魚釣りや乗馬、虫捕り、田んぼの土いじりなどを体験させることを望んでいるのでは」。農山村の魅力は、今も昔も大きくは変わっていないようです。心の拠り所が在り続けるという稀有なこと。一人ひとりの美しい暮らしが繋ぐ幸せ。それが宝物なのだと感じさせられました。



▲ 西方地区、小平さん宅前にて

「生ごみ」について

来年度から会津若松市で稼働する新しい燃えるゴミの焼却炉は、これまでの焼却炉より処理能力が低くなります。

そのため三島町も、施設を利用する自治体として、計画的にごみの減量に取り組む必要があります。

今回は燃えるごみの約5割を占める生ごみの分別について考えていきます。



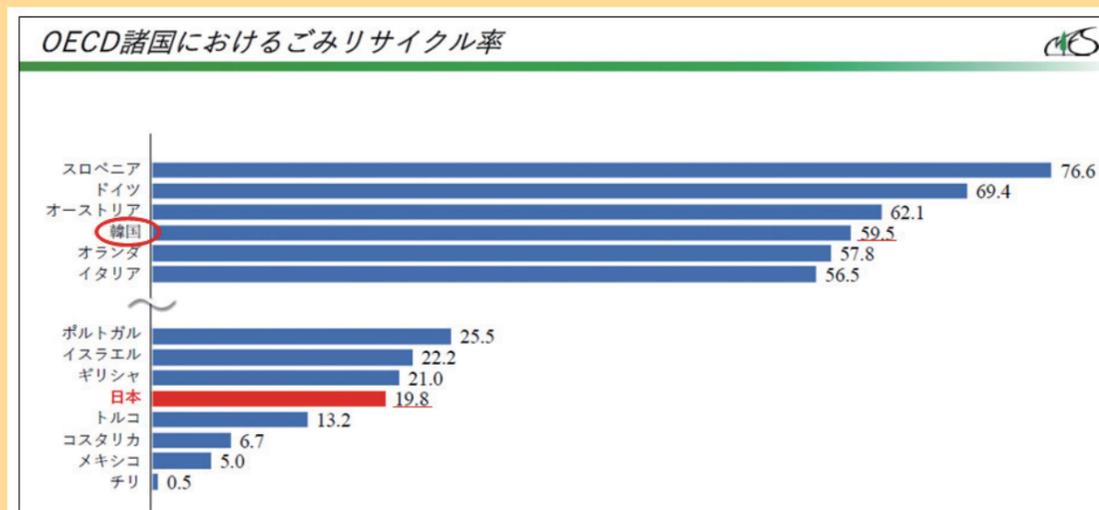
- ・生ごみも、分別すれば資源になります。
- ・生ごみの分別には、右記のようなメリットがあります。

- メリット
- ① 燃えるごみを出す回数が減る
 - ② 生ごみを分別し、乾いたごみだけになれば、悪臭が発生せず、衛生的管理が向上する
 - ③ 乾いたごみだけであれば、さらに分別しやすくなり、排出する「燃えるごみ」の量を更に減らせる
 - ④ 生ごみが混ざっていない乾いたごみだけの状態だと、処理施設で機械選別しやすく、処理の手間や費用の削減につながる

生ごみを分別するときが一番気になるのは「臭い」ではないでしょうか。お隣の国、韓国では埋め立て処分場の悪臭と環境汚染を懸念する近隣住民による生ごみ搬入の反対運動が起きました。

1995年に従量制(有料化)を実施し、各自治体で分別収集を行うと共に、罰則制度も導入されました。また、民主化運動による政権交代で環境問題への取り組みが強化され、環境団体が生まれ、環境教育が徹底されるようになりました。そして2005年に「生ごみ埋立禁止法」が施行され、生ごみの直接埋立が禁止された事などを経て、2001年に56.8%だった生ごみのリサイクル率が、2008年には90.5%になりました。

こうして韓国では生ごみの分別が進んだことにより、其他のごみの分別も促進され、アジアの中で最もリサイクル率が高い国になりました。対して日本のリサイクル率は19.8%と、OECD加盟国の中で下位5番目に低い状況です。

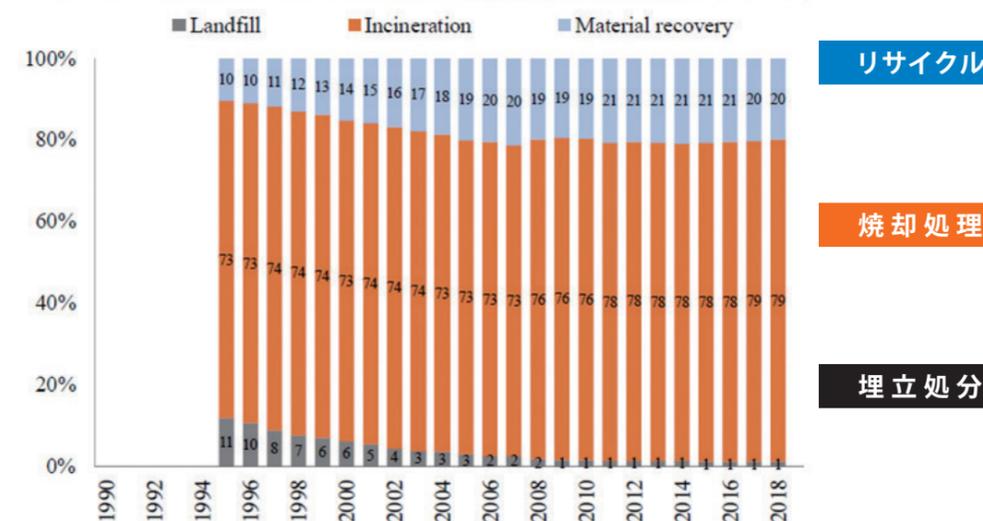


▲ 国立環境研究所、河井紘輔氏より提供：参照元 <https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=MUNW>

考えてみませんか

日本のリサイクル率が低い理由には、焼却処分に頼ってきた背景があります。生ごみに関しても『燃えるごみに捨てて焼却すればよい』という意識が強いため分別が進んでいません。しかし、水分を多く含む生ごみの焼却には多大なエネルギーが費やされるため、環境負荷が高い処理方法といえます。

日本におけるごみ処理割合の推移



▲ 国立環境研究所、河井紘輔氏より提供：参照元 <https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=MUNW>

このような中、焼却処理場を使わない選択をした町があります。鹿児島県の大崎町です。大崎町は埋立最終処分場を延命させるため1998年から分別に取り組んでおり、2020年時点でリサイクル率は83%を超え「リサイクル率日本一」を達成しています。

大崎町では2002年から生ごみの堆肥化を進めてきました。生ごみは週に3回、回収され大崎有機工場で4～5カ月かけて堆肥化されます。作られた堆肥は大崎町の農地で使われています。



▲ 大崎有機工場 (一般社団法人大崎町 SDGs 推進協議会より提供)

私たちが韓国や大崎町から学べることは何でしょうか。リサイクル率が高い町や国には、分別に取り組むことになった動機や20年以上取り組んできた背景があります。持続可能な社会の構築に向け、それぞれの町で住民・行政・企業の協働が求められています。

三島町ではコンポストの購入補助や、生ごみ処理装置「キエーロ」のモニターを募集しています。まずは、各家庭で取り組めることから始めてみませんか。



☎ 町民課町民係 (48)5555

ALT ハナ・イングラム先生ありがとうございました！！

ハナ先生からの挨拶

「この一年を素晴らしい年にしてくれた三島の皆さんに感謝いたします。

初めて三島に引っ越した時、私はとても緊張しました。でも、みんながとても歓迎してくれたので、すぐに三島町の一員になったような気がしました。

私は子どもたちに英語を教え、三島町の一員になることを楽しみました。たくさんのお祭りやイベントを見て、日本や三島町ならではの文化について多くのことを学びました。

私は弁護士になる夢を叶えるため、カナダに帰国しますが、皆さんの健康と幸せを祈っております。三島町に戻り、皆さんにまた会いたいです。」

三島町の保小中学校のALT（英語指導助手）として1年間ご尽力いただいたハナ先生が、8月4日をもって退任されました。



▲ 左から矢澤町長、ハナ先生、山口教育長

新 ALT オーウェン・ヘルファー先生が着任！！

三島町の保小中学校のALT（英語指導助手）にアメリカ・ペンシルベニア州出身のオーウェン・ヘルファー先生が着任しました。

「ギター、野球、スキーが趣味で、町の皆さんにお会いできることや、冬の只見線を見るのが楽しみ」とのことでした。

「町で会うことがあれば、気軽に声をかけてください」ということです。日本語を一生懸命勉強されていて、日本語で会話ができますので、お見かけした際には、ぜひお話ししてみてください。



▲ オーウェン・ヘルファー先生 (22 歳)

～美坂高原利活用事業～

みさか DE あそぼ！ 2025

美坂高原利活用事業の一環で、今年で3回目となる「みさか DE あそぼ！」を8月11日に開催しました。

あいにくの雨で、天気には恵まれませんでしたが、訪れたお客様は、シャボン玉、自転車、プール、流しそうめんなど、用意された遊具に興じるとともに、飲食をしながら、広大な高原の夏のひと時を楽しんでいました。

参加した家族連れの方々には、良い夏休みの思い出になったことと思います。

本来は11日、12日の2日間の開催予定でしたが、翌12日は、雨のため中止となりました。

町民の方々はもちろん、より一層、多くの方にご利用いただける環境を整えていきます。



両沼西部三町村小学校体育交流会（水泳）

三島、金山、昭和の三町村の小学校5、6年生が参加する水泳記録会が、かねやま小学校で7月25日に開催されました。

子どもたちは、競い合い、教え合いながら、自分の目標に向かって練習した結果、三島小Aチームが200mフリーリレーで1位になったほか、自己ベストを出すなど、優秀な成績を収めることができました。

記録会でそれぞれの種目を泳ぎ切った子どもたちの顔には、努力が実を結んだことへの喜びと、自信の表情が見られました。



夏の旅のおもてなし

旅行者への三島町 PR 活動

三島町のPRと特産品等の販売を兼ね、JR東日本㈱と協力し、夏の列車旅行を楽しむお客様におもてなしを実施いたしました。

7月27日と8月3日に、JR只見線会津柳津駅から只見駅まで「風っこ只見線満喫号」で、奥会津の特産品の販売や三島町のPR活動を行いました。

そのほか、会津宮下駅に停車する定時の列車についても、お客様のお出迎えとお見送りを実施しており、三島町の特産品や町のイベントなどの宣伝活動を行うことで、会津を訪れる観光客に三島町の良さを知っていただきました。



▲ 風っこ只見線満喫号でのおもてなし



▲ 駅でのお見送り

秋田喜代美先生 教育講演会 ～令和7年度三島町教職員夏季研修会～

7月30日、三島町交流センター山びこにおいて、三島小・中学校と三島保育所の教職員、福島大学・会津大学の先生や町外の教育関係者約40名が参加し、これからの時代に求められる「子ども主体」の授業づくり・学校づくりのための研修会が実施されました。

三島町の目指す教育である「一人一人の子どもが学びの主人公」になるための授業づくりや学校づくりについてお話いただき、参加者の話し合いや意見を述べる場面もあり、大変有意義な教育講演会となりました。



▲ 秋田喜代美東京大学名誉教授、学習院大学文学部教授、

第8回みしままちびあがーでん開催

8月2日、三島町第三金曜会による「みしままちびあがーでん」が開催されました。

日中の暑さが和らいだ夏の宵に、集まった方々はビールや冷たい飲み物でのどを潤し、恒例のビンゴ大会、子どもたちのスイカ割り、DJの流す音楽を楽しみながら交流を深めました。



ふしぎ発見！わくわく体験 ～三島町公民館主催 環境教室～

8月23日、町民センター大ホールにおいて、役場と国立環境研究所との共催で、小学生並びに保護者を対象とした環境教室が開催されました。

クイズ、模型を使った展示や洪水シュミレーション、プロジェクターや木トンボ作りを通して、環境への学びを深めていく体験型のイベントで、参加した子どもたちや保護者は、楽しみながらも環境問題について様々な事を学ぶ事ができ、夏休みの充実した一日となりました。



▲ 地図から、野生動物の生息地の変化などを学ぶ参加者



▲ クイズで知識を深める子どもたち



▲ プロジェクター作りに夢中になる子どもたち



▲ 作成した木トンボを飛ばし、飛距離を競う子どもたち

企画展「奥会津の川」開催中！

関連企画「奥会津のむかし話～川～」開催！

交流センター山びこでは、9月28日まで奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の川」を開催中です。200年ほど前に川が塞ぎ止められ一時的に水没した大谷村の災害時の絵図、明治から大正期における渡し舟・木材の流送・魚を獲る築場などに関する古文書パネル、昭和21年（1946）稼働の宮下ダム完成前後の写真を展示しています。

8月23日には関連企画として「奥会津のむかし話～川～」が開催され、奥会津の町村から9名の語り部が集い、各地に伝わる昔話が披露されました。三島町からは渡部ユキ子さんが「蛇になった娘」を、五十嵐七重さんが「ひとでなし」を語りました。その後、只見町出身の語り部・斎藤美智子さんと五十嵐七重さんが対談し、奥会津の風土や、語り継がれてきた民話の特色や魅力について話しました。イベントホールに集まった130名もの方々は、語り部の話に聞き入り、会場は大変盛り上がりしました。

この奥会津各町村の語り部が一堂に会する昔語りイベントは今年で2回目。来年もテーマを変えての実施を予定しています。



▲ 渡部ユキ子さんによる昔話



▲ 五十嵐七重さんによる昔話



▲ 斎藤美智子さんと五十嵐七重さんによる対談

森田イチ子さん

百歳「賀寿」贈呈式



▲ 森田イチ子さんとそのご家族

森田イチ子さん（川井）の百歳賀寿贈呈式が行われました。森田さんは8月13日に誕生日を迎えられ、桐寿苑においてお祝い状と記念品、花束が手渡されました。

長寿の秘訣は「三食しっかり食べること」と話されていました。

森田さんのますますのご長寿をお祈りいたします。

酒井佐一さん並びに桧原納税貯蓄組合 納税功労者知事感謝状受章



▲ 左より、今野一宏福島県会津地方振興局長、阿部和彦さん、酒井佐一さん、矢澤町長

酒井佐一さん（個人表彰：三島町納税貯蓄組合連合会会長）並びに阿部和彦さん（団体表彰：桧原納税貯蓄組合長）が、8月20日、町長室において今野一宏会津地方振興局長より納税功労者知事感謝状を授与されました。

功 績	酒井佐一さん
	平成24年～ 宮下第1納税貯蓄組合長に就任し現在に至る。
	平成24～27年 三島町納税貯蓄組合連合会理事に就任 平成28年～ 三島町納税貯蓄組合連合会副会長に就任 令和7年～ 三島町納税貯蓄組合連合会会長に就任

功 績	桧原納税貯蓄組合
	平成28年の振興局長感謝状受賞後も引き続き町県民税を完納するなど、多年に渡り納税に貢献されている。

【桧原】春日神社草刈り作業（7月27日）

阿部 和彦さん



午前6時、桧原地区春日神社境内において神社総代と地区役員の11名でお盆前の草刈り作業が行われました。今年2月の大雪で破損した鳥居の修復工事を地元大工さんに依頼し、無事に完了して桧原地区の皆さんもホッとしたところでした。

草刈り作業は30分で終え、草・枯れ枝を集めて清掃終了です。

春日神社は地区にとって大切な存在・建築物で、関係者の皆様の協力で美しい景観が保たれています。修繕された鳥居と整地された境内で、今年も安心してお盆を迎えることができます。早朝からの作業、お疲れ様でした。

【間方】「美女峠餅ヶ沢森林浴」行われる（7月27日）

菅家 寿一さん

7月27日、かしゃ猫クラブ主催による、第1回「美女峠餅ヶ沢森林浴」が行われました。4歳から87歳までの参加者25名、スタッフ11名が参加しました。

役場前で受付し、町が手配してくれたバスで美女峠の登り口へ。開会セレモニーを行った後、お昼を食べる餅ヶ沢までの約2kmのトレッキングです。オオバクロモジやミズメ等の匂いを嗅いだり、峠のお話をしたりしながら、1時間程をかけてゆっくりと峠道を歩きました。

餅ヶ沢付近では、ブナ林の中でハンモックに寝たり、シートに横になったりして、1時間程のリフレッシュタイムです。ゆったりと日頃の生活をリフレッシュしていただきました。

昼は、餅ヶ沢に因み、あんこ餅、納豆餅（苦手な方には白米）、干しゴゴミ炒め、ワラビ付けです。ささやかなものですが、皆さん喜んで美味しく食べて頂いたようです。

食後は、好評で恒例となった、会員お手製の峠の茶屋の美味しいコーヒータイムです。コーヒーを頂きながら「高姫伝説」の紙芝居も楽しんで頂きました。

片付けは、参加者の方々にも手伝って頂き、登り口まで戻ります。到着後、集合写真、アンケート、抽選会をしてバスに乗り、役場前で解散です。

初めての真夏のイベントでしたが、間方の宝の素晴らしさを改めて感じて頂けたのではないのでしょうか。

今年も秋には（11月9日）、「高姫清水」までのトレッキングを予定しています。

※ 森林浴：森林が発する香りを浴びて心身の健康を図る。水浴、日光浴と並び、健康づくりのための世界の三大自然療法「三浴」の一種。

※ 餅ヶ沢：「高姫伝説」の中で、召使いの弥蔵が茶店を開き、餅などを出していたと言う。

※ 「かしゃ猫クラブ」会員募集：間方を応援する、町内外の有志で組織するクラブです。



ドキュメンタリー映画「山人—縄文の響きが木霊する—」上映会開催！

間方の菅家藤一さんが山と向き合い山の恵みを得て暮らす姿を描いた、映画監督・原村政樹さんによるドキュメンタリー映画「山人—縄文の響きが木霊する—」が数年をかけて製作され、この夏完成し、8月24日、三島町交流センター山びこにおいて、初めての上映会が開催されました。

上映後は菅家さんと原村監督による対談が行われ、この映画が製作されるに至った背景や、今日来場した、そして今後各地で鑑賞される方に伝えたいことなど、様々な事が語られました。

町内外から集まった130名もの観客は、映像に魅入り、また上映後の対談に聞き入り、対談後に設けられた質疑応答の時間では意見や感想、質問がいくつも飛び交い、大変盛り上がりしました。



▲ 菅家藤一さん（左）と原村政樹監督（右）



▲ 山での暮らしや、山の現状について語る菅家さん

三島町映画上映会

山を守るとはどういうことなのか？ 「山には神が宿る」と語る菅家藤一さんの行動すべてに意味があったのか？

山人
—縄文の響きが木霊する—

開催日 2025年8月24日（日）13時30分～（開場12時30分）
上映後、監督原村政樹氏 × 間方菅家藤一氏によるトークショー
会場 三島町交流センター山びこ 鑑賞料 無料
主催 三島町、三島町教育委員会 問い合わせ TEL.0241-52-2165

くるめ おいしい 三島

【双葉食堂】

【ハシノハシ】

会津宮下駅のそばにある、三島町民なら誰もが知っている名店です。通常のメニューのほかに、裏メニューの「カレー焼きそば」は、実はライスも入っていて、「カレーライス焼きそば」だったり個性豊かで、この味に惚れ込んで通う方もいるほどです。

清水橋のそばにあるお店です。静かな雰囲気と優しい味の料理が味わえます。おいしいコーヒーやはちみつラテもあり、天候が合えば清水橋から川霧を眺める事ができます。綺麗な景色とおいしいお食事をいただきに立ち寄ってみたいいかがでしょうか。

●双葉食堂 ☎ (52)2034 ●ハシノハシ 公式HP: <https://hashinohashi.site/>

【滝原】つるの湯遊歩道除草作業（8月3日）

佐久間 絹江さん

8月3日朝6時から、早戸地区の方々と滝原地区ボランティアの方々により機械と手作業で、遊歩道や温泉神社境内、東屋等、除草作業を行いました。

例年以上の雑草の勢いに、大粒の汗を流しながら、朝霧の中、作業していただき、つるの湯をご利用の皆様におもてなしの心が伝わります。

さらに、つるの湯遊歩道除草作業終了後には、滝原地区の方々による滝原地区の入口待避所と林業センター横の花壇のコスモス除草を行いました。雨不足の今年は雑草にも助けられ、枯れることなく順調な成長を見せていましたが、先を急ぐのかすでに開花しているコスモスもあり、今以上の花を期待して雑草を抜き、コスモスの根元に敷き詰めました。秋風が吹く頃にはたくさんのお花を咲かせることを期待します。



【宮下】長坂、大登ロータリーの草刈り作業（8月5日）

小島 純さん

お盆を間近に控えた8月5日。宮下部落では朝6時から、長坂、大登ロータリーで草刈り作業を行いました。

お盆で帰省する方々や観光で訪れる方々に気持ちよく町に入ってもらえるよう、毎年この時期に行われています。

委員たちは、ロータリーの草刈りを丁寧に仕上げた後、アーチ三兄（橋）弟に移動し、視点場も併せて実施しました。

これでお盆のお墓参りに帰省された方々、観光客の方々に気持ちよく景観を眺めていただけたと思います。



【宮下】祭り提灯取り付け作業（8月10日）

小島 純さん

9月に行われる宮下祭りを目前にした8月10日、三島神社奉賛会（会長、宮下区長）では夜間町内を明るく照らす祭り提灯の取り付け作業を早朝6時から行いました。毎年この時期から9月の三島神社祭礼が行われるまで、町を明るく照らしてくれます。

宮下駅前から三島中学校手前まで町内9ヶ所に取り付けられ、高所作業車に乗って取り付けるため、参加者全員が道路状況や周囲に注意しながら、慎重に作業を行いました。



【宮下】合同法要（8月12日）

小島 純さん

お墓参りを翌日に控えた8月12日、宮昌寺（遠藤孝弘住職）で合同法要が行われました。

今年回忌法要にあたっている家族の方々やお盆帰省を法要にあてられた方々がお寺に参集し、午前10時から遠藤住職の読経が始まりました。

その後、それぞれの家族が順番に仏前にお焼香し、故人の冥福を祈りました。

最後に遠藤住職より法話があり、合同法要は無事終了しました。



【西方】真夏の出羽三山講参拝（8月2日～4日）

本名 与四郎さん

西方講中による、信仰のふる里「出羽三山」参りは8月2日④から4日⑥までの2泊3日にかけて行われました。日本だけでなく、世界中を巻き込んだ新型コロナ感染が蔓延していたために、6年ぶりの参拝となりました。

1日目は、朝7時30分にふるさとセンターを出発し、羽黒山三神合祭殿において太々神楽のご祈禱を受けました。その際、小松豊さんは、出羽三山参りを10年続けたために「当神社先達の称号」の入った賞状を授与されました。その後、石段を上り下りしながら、国宝となっている五重塔を見学参拝しました。

2日目は、早朝5時に宿坊にてご祈禱を受けた後、月山8合目まで行き、山掛けするグループと中の宮周辺の高山植物を観賞するグループに分かれての活動となり、山掛けグループの下山後、合流して湯殿山神社本宮にてご祈禱を受けました。

3日目は観光物産館や寺泊においてお護符を買い求める姿がありました。

出羽三山講をとおして、西方の皆様方がご崇敬の念が厚く、脈々と継続しようとする心意気を感じました。次回は3年後の令和10年に予定されているようですので、西方の方だけでなく、三島在住の皆様、是非、参加してみたいかがでしょうか。



「三山の」祈禱を受けて 暑さ忘る」
「バスの中 アルコール飲んで 身を清め」



【桧原】桧原多目的集会所お盆前清掃（8月3日）

阿部 和彦さん

桧原地区では多目的集会所お盆前のお大掃除（例年8月第一日曜）が実施されました。

午前7時から地区住民10名が使い古しのタオルや掃除道具（ガラスワイパー）脚立を持参して集まり、玄関のクモの巣取り、内外のガラス磨き、台所や廊下、階段の床掃除、トイレ掃除、掲示板拭きを皆で分担し手際よく作業が行われ、連日の猛暑で朝から蒸し蒸しと暑い中、約1時間の献身的な作業により綺麗な集会所になりました。

また、12月第一日曜に次のメンバー10名で新年に向けての年末大掃除を行います。



9月24日～9月30日は 結核・呼吸器感染症予防週間です

健康で元気な毎日！
町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

vol.102

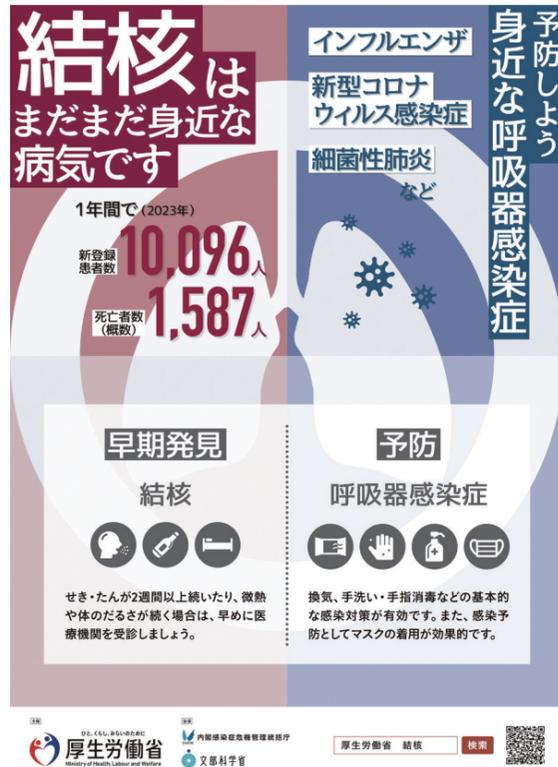
令和7年度結核予防週間標語 『結核はまだまだ身近な病気です』

【結核とは】
結核菌によって肺に炎症を起こす感染症です。全国で毎年約 2000 人が結核で亡くなっています。

【感染経路】
せきやくしゃみと共に空気中に飛び散り、それを周囲の人が直接吸い込むことで感染する「空気感染」です。

【感染・重症化予防】
◎**予防接種（BCG 接種）**
対象：生後 5～8 か月児
◎**早期診断・早期治療**
咳・たんが 2 週間以上続く、体のだるさが長く続く、長引く微熱、胸の痛み、急に体重が減るなどの症状がある場合は早期に受診しましょう。

特に高齢者は目立った症状が現れにくい場合があります。日頃から健康状態に注意しましょう。



結核の感染や重症化予防には、予防接種と早期診断・早期治療が大切です。

図書のご案内

●**今月のおすすめ**
20歳の自分に伝えたい 知的生活のすすめ
齋藤 孝 著



ネット社会、スマホ社会になって以降、私たちは過剰なほどの情報に囲まれ、得てして受け身のままに流される生活を送ってしまっています。そんな現代社会で、「知的生活」を送るためにはどうすれば良いのでしょうか。著者の齋藤孝先生は、「知的生活」とは、黙々と読書し続けるようなクールなイメージとは違うと言います。もっと能動的で、日々ワクワクドキドキして過ごすような、自らのクリエイティビティが発揮できるような、ホットな生活です。教育者として 30 年にわたって学生と向き合ってきた著者が、今の 20 代に向け、また自分の 20 歳を振り返りながら、「知的生活」を送る技法を説きます。

● 図書の紹介



54 字の物語

氏田 雄介 作
佐藤 おどり 絵



10 歳からのもっと考える力が育つ 20 の物語

石原 健次 作
矢部 太郎 絵

町民センターゆめほけっと

※図書の返却は、返却ボックスに入れていただくだけで結構です。返却時に端末の操作は不要ですので、そのままボックスにお入れください。ご協力をお願いします。

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

地域おこし協力隊

循環

茂田 龍揮

太陽が地上の全てを漂白していく日々を忍びながら過ごした。畑では、野菜と草花たちが萎れた葉を晒して懸命に生きていた。時折、この町で出会った方から美味しいお料理や畑で採れたお野菜をいただく。有り難さに涙し、うになりながら、同時に、畏れ多さにバチが当たるのではないかと想う。何か私からお返しできないかと考える。

ご縁を頂き人前で演奏させていただいたのは、この二ヶ月間のこと。南会津高校の音楽の授業と、特別町民の集いの席で弾いた。その日は両日とも雨だった。箏は水の神である龍を模した形をしている。そのためこころなしか、雨の日は楽器がよく鳴る気がする。そしてこころは桐の里。桐の楽器、箏は三島の里山と共鳴するだろう。



▲ 特別町民の集い懇親会での箏の演奏

を重ねることだと思いがた。生きるよすがとしての箏、その音色をお世話になっている方に届けられますように。言葉も贈り物になり得る。前副町長が退任の挨拶の最後に仰った「幸せになつてください」という言葉が何度も蘇る。ストレートなセリフはどうしてこころに響くのか。私も願わくは真つ直ぐに、想いを言葉で伝えていきたい。

ようこそ陶芸室へ ～小学校の学年行事にてご利用いただきました～



▲ みんなで陶芸制作

内容	料金	備考
陶芸機器利用料(ガス代別途)	300 円 / 日	手回しろくろ、電動ろくろ、土練機、陶芸ガス窯(小)、陶芸ガス窯(大)、各種ヘラ等
陶土	200 円 / k g	
ガス代	944 円 / m ³	陶芸ガス窯(小)において 素焼気：2m ³ 本焼き：5m ³ 程度必要

7月5日、小学校3年生の学年行事の一環で、陶芸室をご利用いただきました。生活工芸館では、陶芸室と陶芸窯があり、常時貸し出しを行っています。ご予約をいただくと手回しろくろを使った「手びねり」の作陶ができます。今回は、11名の皆様に一人あたり 500 gの陶土をお渡ししました。親子や友達同士で教えあう姿がとても印象的で、温かい雰囲気にも包まれていました。この広報がお手元に届くころには、焼きあがった作品をお使いいただけることと思います。

焼き作業を行う中で、それぞれの作品に釉かけや仕上げを行いました。一つ一つが味のある唯一の作品であると感じました。ぜひ皆様も陶芸教室をご利用ください。



▲ 親子で制作



▲ 皆さんの作品



▲ これから焼き作業

☎ 三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

工芸館だより 52 ～ものづくりの伝承～



猛暑の影響で変化する「食」への適応

三島町のみなさま、こんにちは。近年は記録的な猛暑が続き、私たちの暮らしや健康だけでなく「食」にも大きな影響を及ぼしています。今回猛暑が食にどのような影響を与えているかとあわせて、そういった影響に私たちがどのように「適応」していけばよいのかについてご紹介します。

猛暑は野菜や果物の成長に大きな影響を与えています。このまま温暖化が進んだ場合、たとえば施設栽培のトマトは、9月の収量が約15%減少すると予測されています。ハウレンソウは夏場に葉が短くなり、70%もの遮光をしても十分に育たないとされ、夏作の栽培が難しくなる可能性があります。また、ハクサイでは高温・多雨の年に軟腐病が多発し、病害リスクが増すと見込まれています(環境省 A-PLAT「2023年度報告書テーマ2」より)。

果樹でも変化が進んでいます。ウンシュウミカンは今後、今の産地が「暑すぎる」地域となり、適地が北上すると予測されています。なお比較的涼しく、これまでミカンの栽培が適していなかった福島県では温暖化が進めばミカンの産地に適した気温になると予測されています。アボカドやライチといった寒さに弱い果樹は、日本での栽培適地が拡大すると見込まれていますが、その一方でリンゴやモモでは高温により、着色不良や果肉の軟化といった品質低下が心配されています。つまり、これまで当たり前食べてきた作物の栽培が難しくなったり、これまでは栽培が難しかった新しい作物に出会える可能性もあるのです。

こうした変化に対応するために、国内各地では、高温に強い品種の開発や、遮光ネット・反射シートの活用、栽培時期の調整など、さまざまな工夫が進められています。また、産地を標高の高い地域へ移す、あるいは新しい果樹を導入するといった動きも始まっています。これから気温が上昇していくことにより、これまでとは違う気候の地域に適した生育方法や作物を導入していくことで柔軟に適応していくことが大切です。

生産者だけでなく、私たち消費者にもできることがあります。「気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)」で紹介しているのは「食の選択肢を増やそう」という行動です。たとえば、栽培地域や収穫物を変化した地元でとれた旬の農産物を購入する、形が不揃いでもおいしい規格外野菜を有効活用する、代替肉や植物性食材を選択するなど、今までにない食の選択をすることも猛暑への適応となるのです。

サラダ
国産アボカドを使用
温暖化で栽培適地拡大

ごはん
高温耐性米
高温による品質低下を防ぐ



メイン
変わる魚で楽しむ
フィッシュフライ
漁獲量変動で
魚の種類が変化

スープ
規格外野菜のポタージュ
高温による規格外野菜も
おいしく

※気候変動によって変化した未来の食卓のイメージ(気候変動プラットフォーム「食の選択肢を増やそう」より)

地球温暖化は確実に進んでいます。熱中症の対策で生活を変化させるように、「食」を見直して変化させることも暑い夏への適応となります。おいしいと思える食の選択をして、うまく暑い夏を乗り越えていきましょう。

【参考文献】

- 気候変動プラットフォーム「食の選択を増やそう」
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/everyone/15action/action05.html>
- 気候変動予測・適応評価の総合的研究(環境研究総合推進費 S-18) テーマ2 成果報告書
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/external/s-18/ccap-jp/wp-content/uploads/2024/08/2023report-theme-2.pdf>
- 農林水産省「気候変動適応ガイド」
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/>



筆者 ときわ たつひこ 常盤 達彦

国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

町史編さん室だより

第116回

宮下の玄関口、東橋(吾妻橋)から宮下橋へ

平成20年代に宮下アーチ三兄弟(橋)弟として観光スポットとなった三橋の一つである宮下橋は昭和32年(1957)に完成しました。役場日誌を確認すると、31年6月20日に旧橋である東橋の架換促進期成同盟が結成され、8月7日には東橋架換工事に伴う家屋移転其の他の問題で地元村議を招集し協議が行われ、同月22日に架換工事の起工式が、32年5月7日には宮下橋の渡橋式と宮下小学校講堂で竣工祝賀会が挙行されています。

旧橋である東橋がいつ架設されたかは、現在町にある資料からは明らかにできません(町外の資料に昭和3年の記述あり)。ただし、この東橋以前の橋梁だと思われる記述は、大石田中野に大正元年に生まれた故・飯塚眞氏の自伝『夕映の山河』にあります。誤字脱字と思われるものを一部訂正して引用すると、

宮下部落の南外れに大谷川が流れていて、土橋が架かっていて。この土橋は、柳津から宮下を経て奥只見方面へ延びる県道の重要な要橋であるから、か

なり頑強に造られている。丸太を敷き詰めその上に土漏れを防ぐ為の杉の皮を敷き、土砂を部厚く盛った土橋である。

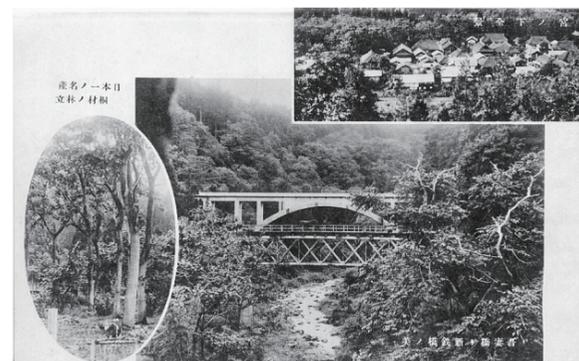
とあります。これは大正10年代頃の回想ですが、当時としては立派な橋梁であったことがうかがえます。



▲宮下アーチ三兄弟 (上) 新宮下橋 (中) 大谷川橋梁 (下) 宮下橋

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。

☎(52)2165



▲昭和20年頃製作「吾妻橋ト新鉄橋ノ美」(宮下商業組合青年隊発行絵はがき)



▲宮下橋 (昭和32年5月竣工)



▲撮影年不明 大登・中川井の「橋本物産店」もしくは「橋本屋」(角田伊一氏提供)

(町史編さん室)

この橋の近く、通称橋本と呼ばれるところには橋本屋(橋本物産店とも)という食料品から雑貨一式までを取り扱うお店があったといえます。飯塚眞氏の生家では屋根葺きなどに用いる木羽を生産しており(木羽割り)、木羽運びを生業の一つとする方に頼み、一時は木羽のほとんどをこの橋本屋に卸していたとのこと。 ※役場日誌では東橋としており、本稿もその表記に統一しましたが、絵はがきには吾妻橋と表記されており、正しくはどちらの漢字であったかは不明です。

「秋バテ」に注意しましょう

9月は季節の変わり目で、朝晩の気温差が大きく自律神経が乱れやすくなります。
冷たい飲み物や食べ物で弱った胃腸には温かく消化の良い食事を心がけましょう。
旬のかぼちゃ、さつまいも、キノコ類はおすすです。
湯船に浸かり、体を冷やさないようにしましょう。
十分な睡眠をとることも大切です。
夏に頑張り過ぎた体を労わってあげましょう。
愛ばんしょ外来では、健康に関する相談やDVDの貸し出しを行っております。
お気軽にお声がけ下さい。

☎福島県立宮下病院 ☎(52) 2321

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました(7月分)

ふるさと納税

小林 照美 様(福島県)
佐藤 信博 様(宮城県)
寺建 文夫 様(宮城県)
寄附件数 10件 計 88,000円

9月分納税のご案内

【納期限 9月30日(火)】

- ▼ 国民健康保険税 (第3期)
 - ▼ 介護保険料 (普通徴収)(第3期)
 - ▼ 後期高齢者保険料(普通徴収)(第2期)
- 忘れずに納付してください。

☎町民課 町民係 ☎(48) 5555

お悔み申し上げます

佐久間 房 様(90才・早戸)
佐久間 蝶子 様(94才・早戸)
片山 聡子 様(90才・松原)
鈴木 由二 様(86才・大石田)

町の人口と世帯(8月1日現在)

人口	1,306	増減数	-1	出生	0
男	662		1	死亡	2
女	644		-2	転入	4
世帯	670		2	転出	3

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

8月号で増減数に誤りがありました。
誠に申し訳ありませんでした。

社会福祉協議会より

大石田友遊サロン	ひまわりサロン
9月8日(月) 社会見学	9月19日(金) 午前10時から 町民センター
間方いきいきクラブ	川井友愛サロン
9月12日(金) 午前10時から 間方集会所	9月19日(金) 午前10時から 川井集会所
滝谷和楽塾	ほがらかサロン
9月16日(火) 午前10時から 滝谷集会所	9月25日(木) 午前10時から 森の校舎カタクリ
サロンなごみ	サロンないり
9月18日(水) 午前10時から 西方ふるさとセンター	9月29日(月) 午前10時から 名入集会所
高清水・小山 いきいきサロン	浅岐あったかサロン
9月18日(水) 午前10時から 高清水集会所	9月30日(火) 午前10時から 浅岐集会所

◆社協会長杯グラウンドゴルフ大会◆

9月17日(水) カタクリグラウンド
午前8時30分 集合 / 午前9時 競技開始

◆心配ごと相談(弁護士相談)◆

9月24日(水) 福祉センター
午前10時から午後3時まで

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

佐久間 源一郎 様(早戸)
片山 慎一郎 様(松原)
鈴木 康弘 様(大石田)

☎社会福祉協議会 ☎(52) 3344

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ「三島通信」では健康教室を放送中です。

9月は「フレイルPart3」です。ぜひご覧ください。



☎福島県立宮下病院 ☎(52) 2321

会津坂下消防署からのお知らせ

その一手が命をつなぐ 9月9日は「救急の日」

「救急の日」とは

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に昭和57年に定められ、以来、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間(日曜日から土曜日まで)を「救急医療週間」として行います。

今年は、9月7日(日)から9月13日(土)までが「救急医療週間」です。この期間には、全国各地において、消防庁、厚生労働省、都道府県、市町村、全国消防長会、公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本救急医学会、その他関係機関の協力により各種行事を開催しています。

あなたができること	
心肺停止の予防	ケガの予防、初期症状の気づき
早期認識・通報	救急車を呼びましょう!
一時救命処置	心肺蘇生・AED

※上記の処置を行い、救急隊・医師へつないでください。

※救命講習の受付については最寄りの消防署(出張所)にお問い合わせください。

火事・救急・救助は119番 TEL 0241(52)3032
会津坂下消防署三島出張所 FAX 0241(52)3033

令和7年度障害者就職面接会 (会津若松会場)開催について

就職希望の障害者と求人企業が一堂に会し、数多くの面接の機会を確保し、障害者の雇用の促進を図ることを目的とした「障害者就職面接会」を下記の内容で開催します。

記

開催日時	令和7年10月24日(金) 13:00~16:00
開催場所	会津アピオスペース 展示ホール (会津若松市インター西90)
参加予定企業数	30社程度
問合せ先	ハローワーク会津若松 専門援助部門 ☎0242(26)3333(部門コード45#)

会津坂下警察署からのお知らせ

「子どもの車内放置」は児童虐待! 見つけたら、通報と救出を

炎天下の車内に子供を放置する行為は児童虐待です。

子供は、身体の体温調節機能が未熟なこともあり、短時間でも重度の熱中症を発症し、命を失う可能性があります。

炎天下の車内の温度は、日中の気温上昇とともに急上昇し、少し窓を開けている程度では防ぐことはできません。

「眠っているから」、「すぐに戻るから」という安易な気持ちで子供を乗せた車内から離れないようにしましょう。

また、車内に放置された子供を発見した場合には、すぐに110番通報してください。

SNS型詐欺にご注意を!!

SNS(X、Facebook、Instagram、TikTokなど)を使用した詐欺が昨年発生しています。

特に下記の2種類の手口が急増していることから注意してください。

① SNS型ロマンス詐欺

SNS型ロマンス詐欺はSNSやマッチングアプリを通じて出会った者と、実際に会うことなくやり取りを続けることで恋愛感情や親近感を抱かせ、「結婚資金」や「金銭の援助」といった名目で、ネットバンキングなどの手段によりお金を振り込ませる詐欺です。

外国人を名乗り、「荷物を送るための関税」や「日本に会いに行くための旅費」という名目を使うこともあります。

② SNS型投資詐欺

SNS型投資詐欺は「必ず儲かる」「あなただけに教える」等の広告や有名人の名前を使うことで興味を引き、SNSでメッセージのやり取りを重ねて信頼させてから「投資金」や「手数料」といった名目でネットバンキングなどの手段によりお金を振り込ませる詐欺です。

ロマンス詐欺の要領で恋愛感情や親近感を持たせ投資に誘導する手口もあります!

少しでも怪しいと感じたら連絡をやめて警察に相談してください!!

☎会津坂下警察署警務係 ☎0242(83)3451

福島県三島町

令和7年度福島特定原子力施設地域振興交付金事業



入場
無料

STAR WATCHING TOUR

スターウォッチングツアー2025

ミサカノヨゾラ

2025.9.20 12:00
21:00

福島県三島町「美坂高原」



日中は
マルシェ会場で
書籍販売・サイン会も
開催します!



渡部潤一先生と見る!

奥会津「美坂高原」の星空

〈講演会〉
19:00-20:00

〈星空観望会〉
20:15-21:00

国立天文台 首席教授の渡部潤一先生による天体に関する講演会と星空観望会

渡部潤一先生 (会津若松市出身)

主催 三島町・美坂高原利活用イベント実行委員会
共催 三島町教育委員会・三島町観光協会
後援 只見川電源流域振興協議会・奥会津五町村活性化協議会・福島民報社・福島民友新聞社

Supported by **Vixen mont-bell** (株)ファイヤーサイド

〈お問い合わせ・お申し込み〉

美坂高原利活用イベント実行委員会事務局(三島町地域政策課内)

Tel 0241-48-5533 Fax 0241-48-5544

Email:seisaku@town.mishima.fukushima.jp



磐越道
「会津坂下IC」
から国道252号で
約40分



みしま 9

September 2025

広報みしま9月号(第391号)
令和7年9月5日発行(毎月第1金曜日発行)

発行 三島町 編集 三島町役場 地域政策課
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350 ☎0241(48)5533
ホームページ <https://www.town.mishima.fukushima.jp>
印刷 北斗印刷株式会社